

育児シェアが広がっても、妻に偏る「名もなき育児」

共働き家庭 1,048 人調査で見た育児負担の実態

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：大友浩嗣）は、全国の 20～59 歳の共働き子育て世帯を対象に「家事・育児に関する調査」を実施しました。

共働き世帯の増加や育児休業制度の普及などを背景に、子どもと遊ぶ、見守る、お出かけに付き添うといった育児は夫婦でシェアする意識が広がっています。一方で、学校や園への持ち物の準備、連絡帳やプリントの確認、予定管理など、子どもの生活を支えるために日常的に発生する細かなタスクは、家庭の中で見えにくく、共有しづらい負担として残りやすいことが分かりました。

当社では、こうした名前の付きにくい育児を「名もなき育児」と捉え、その実態を調査しました。その結果、子どもと直接関わる育児では「夫婦で半々」と評価される項目が多く見られた一方、名前書きや連絡帳確認、予定管理などの管理・調整型の育児では妻に偏る傾向が確認されました。さらに、負担軽減の理想としては「外部サービスに任せたい」よりも「家族でシェアしたい」と回答する割合が高く、家族で関わりたい意識と実際の暮らしとの間にギャップがあることも明らかになりました。

こうした結果を踏まえ、当社は、家事・育児を一人に集中させないためには、意識だけでなく、家族が自然に関われる“住まいの仕組み”が重要だと考えています。大和ハウスの規格住宅・セミオーダー住宅「Smart Made Housing.」では、暮らし方に合わせて間取りや仕様を選びやすく、家族で家事・育児をシェアしやすい住まいづくりを提案します。

主なポイント

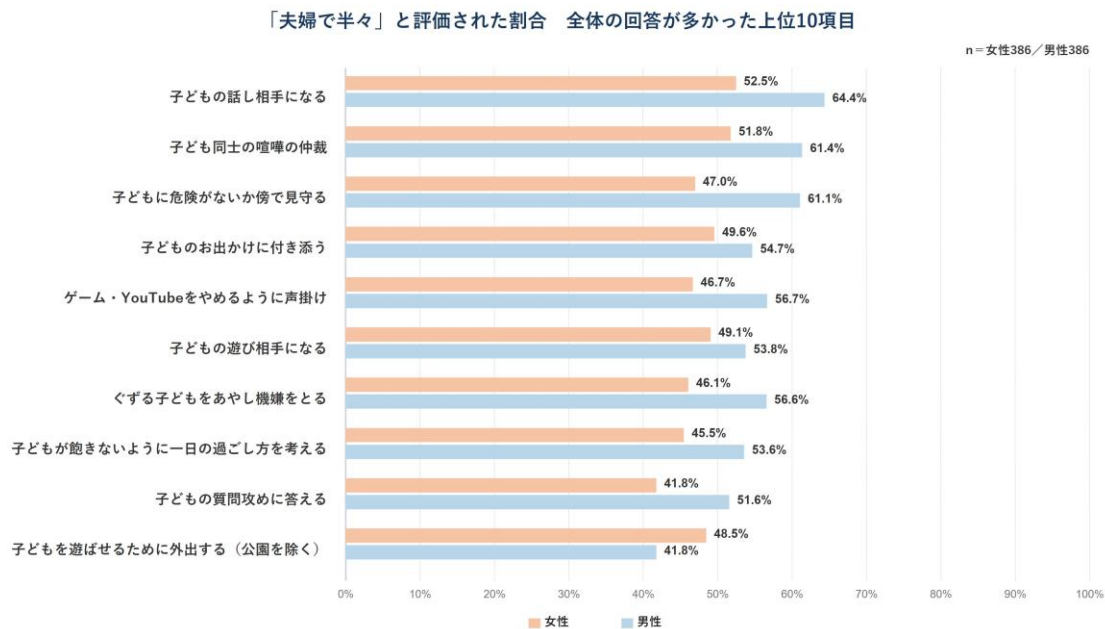
- ・子どもと直接関わる育児では、夫婦でシェアの意識が広がっている傾向
- ・一方で、名前書き、連絡帳確認、予定管理などの「名もなき育児」は妻に偏る傾向
- ・こうした偏りは夫側も認識しており、夫婦間の意識差だけでなく、共有しづらいタスク構造が課題に
- ・負担軽減の理想は「外注」より「家族シェア」。自分ひとりで抱える状態から抜け出したい意識が見られる
- ・「掃除」「片付け」などでは、家族でシェアしたい意識と実際の負担軽減にギャップ
- ・Smart Made Housing.は、家族が自然に関われる動線・収納・情報共有の工夫を住まいから提案

■共働き家庭では、子どもと直接関わる育児は夫婦でシェア

今回の調査では、「子どもの話し相手になる」「子ども同士の喧嘩を仲裁する」「子どもに危険がないかそばで見守る」「子どものお出かけに付き添う」など、子どもと直接関わる育児について、「夫婦で半々」と評価される割合が高い傾向が見られました。

これは、共働き家庭において、子どもと過ごす時間や見守り、遊びといった“関わる育児”が夫婦双方の役割として捉えられつつあることを示しています。育児の担い手は母親が中心というイメージから、夫婦で関わるものへと意識が変化していることがうかがえます。

【図1：「夫婦で半々」と評価される育児】



■一方で、管理・調整型の「名もなき育児」には偏りが残る

育児シェアが広がる一方で、育児の内容によっては役割に偏りも見られました。夫に偏る傾向が見られた育児としては、「子どもの自転車の整備」「子どもが捕まえてきた虫を飼育する」「子どもを公園に連れていく」などが上位に挙がりました。

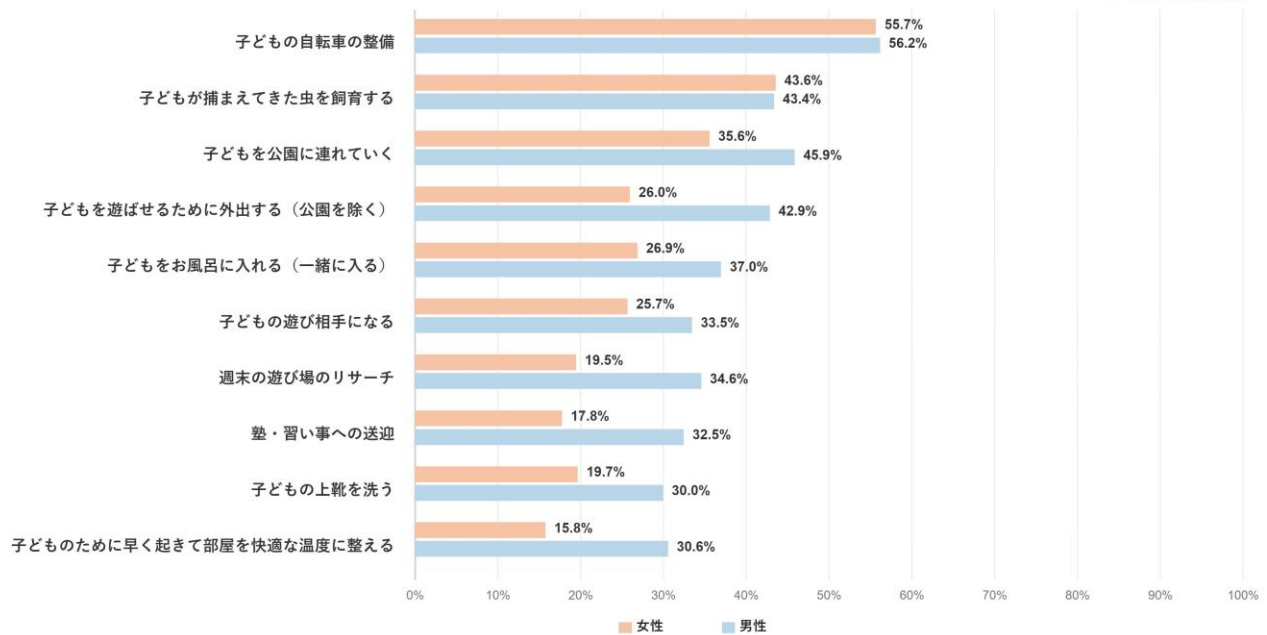
一方、妻に偏る傾向が見られた育児としては、「学校や園への持ち物の名前書き」「連絡帳やプリントの確認・記入」「子どもの髪をセットする」「子どもの衣類の準備・コーディネート」「子どもの予定把握と調整管理」などが上位に挙がりました。特に、学校や園とのやり取り、持ち物管理、予定管理などは、子どもの生活を滞りなく支えるために欠かせないものの、家庭の中では可視化されにくく、共有の仕組みがないと一人に集中しやすい育児です。

また、こうした妻に偏る項目については、男性側も同様の認識を示しています。つまり、夫婦間で「見えていない」ことだけが原因ではなく、タスクの発生タイミングが細かい、情報が一人に集まりやすい、やり方を共有しにくいといった、管理・調整型タスクそのものの性質が背景にある可能性があります。

【図2：夫に偏る育児】

「夫に偏る（ほぼ夫／夫のほうが多い）」と評価された割合 全体の回答が多かった上位10項目

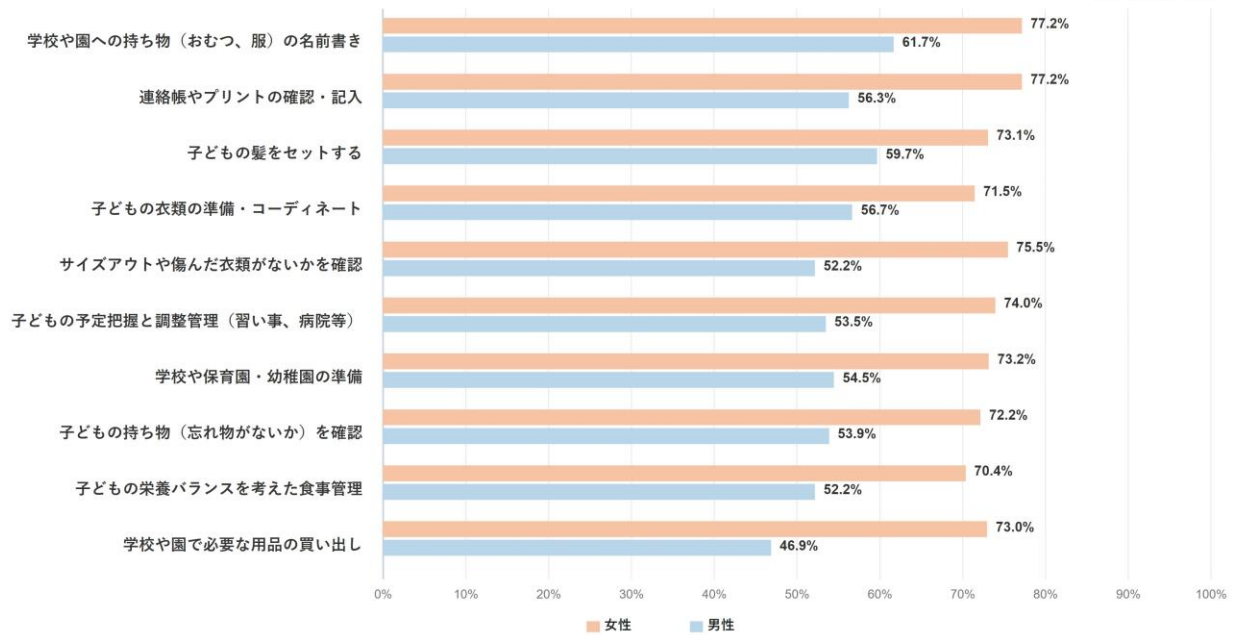
n = 女性386 / 男性386



【図3：妻に偏る育児】

「妻に偏る（ほぼ妻／妻のほうが多い）」と評価された割合 全体の回答が多かった上位10項目

n = 女性386 / 男性386



■理想は「外注」より「家族シェア」

負担を感じる家事・育児について理想のあり方を尋ねたところ、多くの項目で「家族でシェアしたい」という回答が最も高くなりました。たとえば、女性では「子どもの遊び相手になる」「ゴミ捨て／仕分け」「子ども同士の喧嘩の仲裁」「おもちゃの片付け」など、日常的に繰り返し発生する家事・育児で「家族でシェアしたい」が7割に達しています。

この結果から見てくるのは、「家事や育児をやりたくない」という意識ではなく、「自分だけが把握し、自分だけが対応する状態から抜け出したい」というニーズです。共働き家庭では、家族みんなで暮らしを回したいという意識が高まる一方で、そのための情報共有や動線、収納の仕組みが十分でないことが、負担感につながっていると考えられます。

【図4：家事・育児の理想のあり方】

家族シェア / 手放したい / 自分でやりたい / 自分がやるしかない 家事・育児の割合

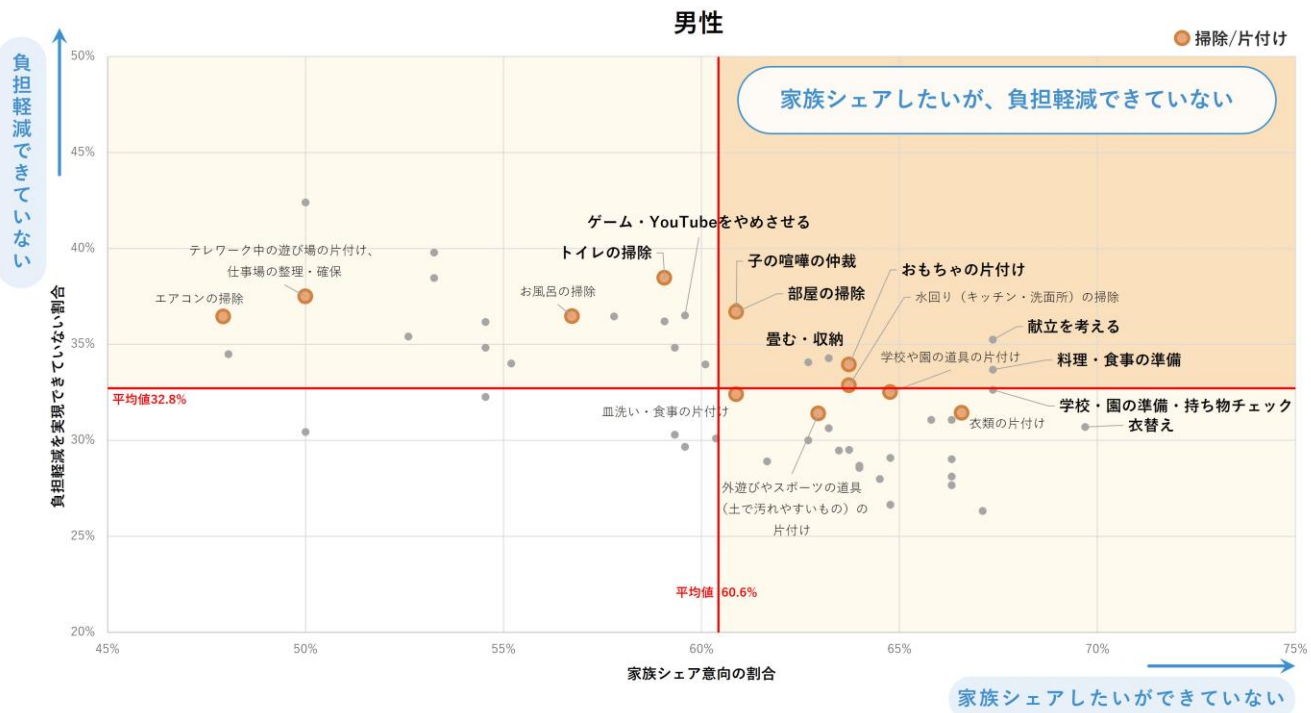
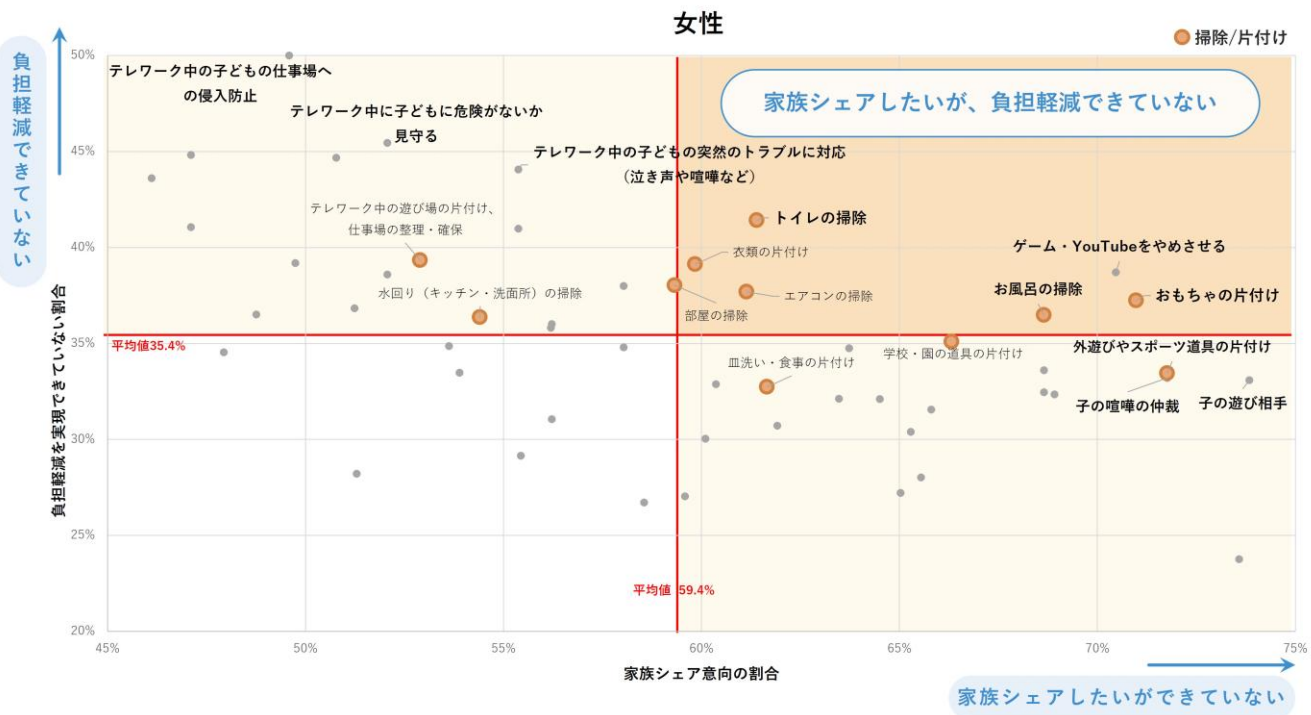
		家族シェアしたい	手放したい	自分でやりたい	やりたくないが自分でやるしかない	その他
家族シェアTOP5 女性 (n=386)	1位 【育児】見守り 子どもの遊び相手になる	73.8%	4.9%	10.9%	8.0%	2.3%
	2位 【家事】他家事 ゴミ捨て/仕分け	73.6%	7.8%	6.0%	11.7%	1.0%
	3位 【育児】見守り 子ども同士の喧嘩の仲裁	71.8%	3.9%	9.1%	9.1%	6.2%
	3位 【家事】片付け 外遊びやスポーツの道具（土で汚れやすいもの）の片付け	71.8%	8.3%	6.2%	11.1%	2.6%
	5位 【家事】片付け おもちゃの片付け	71.0%	8.5%	6.7%	11.1%	2.6%
		家族シェアしたい	手放したい	自分でやりたい	やりたくないが自分でやるしかない	その他
家族シェアTOP5 男性 (n=386)	1位 【家事】他家事 衣替え	69.7%	13.5%	6.5%	7.8%	2.6%
	2位 【育児】学校関連 学校や園の準備・持ち物チェック	67.4%	15.5%	9.1%	4.9%	3.1%
	2位 【家事】食事 料理・食事の準備	67.4%	14.2%	8.0%	8.3%	2.1%
	2位 【家事】食事 献立を考える	67.4%	15.3%	7.3%	7.8%	2.3%
	5位 【家事】他家事 食料品や日用品の買い物	67.1%	13.2%	9.6%	7.5%	2.6%

■「家族でシェアしたい」が、実際には負担軽減につながっていない家事・育児も

さらに、「家族でシェアしたい」という意識が高い一方で、実際には負担軽減につながっていない家事・育児も見られました。特に、「掃除」「片付け」などは、家族でシェアしたいニーズが高いにもかかわらず、日々の暮らしの中では負担が残りやすい項目です。

これらに共通するのは、作業そのものだけでなく、「どこに何をしまうか」「いつまでに何を準備するか」「誰が気づき、誰が対応するか」といった判断や管理が伴う点です。やる気や意識だけに頼るのではなく、家族の誰もが必要な情報や物にアクセスしやすく、自然に行動につながる環境を整えることが、負担軽減の鍵になります。

【図5：負担軽減できていなく家族シェアしたい家事・育児】※太字はTOP10



■住まいの工夫で、家族みんなが関わりやすい環境へ

今回の調査結果から、家事・育児を家族でシェアするためには、単に「分担しよう」と呼びかけるだけでなく、家族が自然に動ける住まいの工夫が重要であることが見えてきました。特に、子どもの持ち物や

学校・園からのお便り、日々の学習や見守りに関わる場所を家族で共有しやすくすることで、タスクが一人に集中しにくくなります。

たとえば、大和ハウスの以下のアイテムは、準備・片付け・情報共有を家族で行いやすくする工夫の一例です。

①自分専用カタヅケロッカー



②しまいごちイージークローク



③お便り紙蔵庫



④スタディコーナー



⑤スマートビューカウンター



① 自分専用カタヅケロッカー

帰宅後に脱いだ靴やコートをさっと片付けられるロッカー。家族それぞれの収納場所を決めることで、一人ひとりの荷物を個別管理できます。

② しまいごちイージークローク

子どもの持ち物の変化に合わせた可動式の収納。柵板やパイプを自由に組み合わせてカスタマイズできる収納システムです。

③ お便り紙蔵庫

お知らせやプリントなど家族で共有したい情報をひとまとめにできる収納。扉を閉じておけるため、空間をすっきり保てます。

④ スタディコーナー

家事をしながら子どもの勉強を見守れるスペースです。

⑤ スマートビューカウンター

家族の様子を見渡しながら、日用品をすっきり収納できるカウンターです。

物の定位置や情報の置き場所が共有されることで、「誰かが気づいて対応する」のではなく、「家族の誰もが気づき、行動しやすい」暮らしへ近づけることができます。

■「Smart Made Housing.」が提案する、家族でシェアしやすい暮らし

今回紹介した家事・育児のシェアをサポートする収納や空間提案は、大和ハウスの規格住宅・セミオーダー住宅「Smart Made Housing.」でも取り入れることができます。「Smart Made Housing.」は、自由設計と規格住宅の特長を生かしながら、プロが設計した多彩な間取りや仕様の中から、暮らしに合った住まいを選んでつくる住まいのかたちです。間取りや外装・内装、住宅設備を選びやすく、セミオーダー住宅ではベースとなる間取りをもとに、家族構成やライフスタイルに合わせたカスタマイズも可能です。

家事・育児を家族でシェアしやすくするためには、家族みんなが使いやすい収納、キッチン・ダイニングを中心にした動線、洗濯から収納までを見通しやすい配置、学習や見守りがしやすい共有スペースなど、日々の行動を支える住まいの設計が重要です。「Smart Made Housing.」では、こうした暮らし方に合わせた住まいを選びやすくすることで、家事・育児を一人に集中させず、家族みんなが自然に関わる暮らしを提案します。

また、敷地条件や住まいへの要望をもとに、AIが多様なプランの中から合致度の高い候補を提案する「AIプランコンシェルジュ」により、希望する暮らし方や価値観に合った住まい選びをサポートします。家族で家事・育児をシェアしたいというニーズに対し、住まいの選び方から暮らしの実現までを後押しします。

【調査担当者】

大和ハウス工業株式会社

ハウジング・ソリューション本部

技術統括部 技術開発部 住宅技術研究所 住生活研究グループ 中野 吏

〈コメント〉

私たちは、住まいに求められる価値の変化を捉えるため、ライフスタイル調査を継続的に実施しています。近年は家事・育児シェアへの関心が高まっていますが、「分担しているにもかかわらず、なぜか自分に負担が偏る」といった声も聞かれます。そこで今回は、こうした見えにくい負担を含む「名もなき育児」の実態に着目し、調査を行いました。

育児休業制度の拡充など働き方改革は進んでいますが、労働時間や賃金、出張や単身赴任の割合などには依然として男女差が残っています。今回の調査結果の背景には、こうした就労環境の違いが、夫婦間の家事・育児負担の差にも影響している可能性があると考えています。

共働き世帯の増加に伴い、家事・育児の課題は夫婦間のシェアだけでなく、暮らしの仕組みそのものとして捉えることが重要になっています。住まいや住宅設備の工夫によって負担そのものを軽減し、家族が無理なく協力できる環境づくりが求められています。当社は今回の調査で得られた知見を活かし、今後も子育て世帯に寄り添った住まい提案を進めてまいります。

【調査概要】

調査手法：WEB アンケート

調査対象：全国 20～59 歳の男女

- ・ 共働きの子育て世帯(核家族)
- ・ 育児分担について男性負担が 3 割以上と回答

サンプル数：1,048 サンプル

調査期間：2026 年 6 月 12 日～2026 年 6 月 17 日

【 Smart Made Housing. サイト】

[規格住宅・セミオーダー住宅 | 商品 | 注文住宅の大和ハウス（ハウスメーカー）](#)

【 AI プランコンシェルジュ サイト】

[AI プランコンシェルジュ | 注文住宅の大和ハウス（ハウスメーカー）](#)

【My 間取りサーチ サイト】

[My 間取りサーチ | ご相談 | 注文住宅 | ダイワハウス](#)